

情報化施工技術を活用した 工事の成績評定結果の分析



総合技術政策研究センター

建設システム課 施工管理技術係長 渡辺 健一 課長補佐 市村 靖光 課長 塚原 隆夫

(キーワード) 情報化施工、新技術、工事成績評定、監督、検査

1. はじめに

国土交通省では建設分野においてICT（情報通信技術）を活用した新しい施工方法である情報化施工の普及を図っており、その取り組みの一環として、直轄工事において情報化施工技術を活用した試験施工を実施している。

情報化施工技術を活用することによって、現場作業の効率化や工事目的物の確実な品質確保など、様々な効果が期待されており、活用の効果や課題を検証するため、情報化施工技術を活用した工事の成績評定結果に着目し、その評価結果の傾向について分析を行った。

2. 工事成績評定結果の分析

国土交通省北海道開発局、各地方整備局及び内閣府沖縄総合事務局における2009（平成21）年度に完成した土木工事（港湾・空港事業を含まない）を対象として、情報化施工技術の活用有無だけに着目した成績評定結果から集計・整理した評定点を比較することにより分析した。

評定点の分布状況を比較した結果（図-1）からは、情報化施工技術の活用有無により、評定点（平均）で1.7点の差が生じており、活用工事の評定点が高くなる傾向がみられた。

次に、工事成績評定の評価項目（細別）毎の得点割合（平均）を比較した結果（図-2）では、「創意工夫、社会性等、品質、出来形」で活用工事の評価が高くなる傾向がみられた。

情報化施工技術を活用した工事の成績評定においては、活用した工事受注者へのインセンテ

ィブとして、「創意工夫」の点数に0.8点を加算する運用がされているため、評価が高くなることは予想されたが、施工品質を評価する「品質」や出来形寸法等の適合を評価する「出来形」においても、評価が高くなる傾向が確認出来た。

3. 今後に向けて

情報化施工技術を活用した工事件数は年々増加しており、成績評定結果データの蓄積と分析を継続的に行い、情報化施工技術の活用による効果や課題について検証し、その結果を、施工技術の改善や監督・検査及び施工管理の手法の確立に役立ててまいりたい。

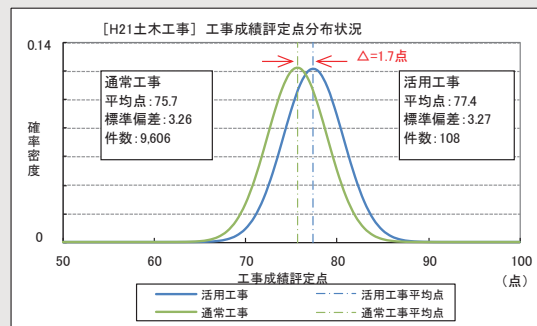


図-1 工事成績評定点の分布状況

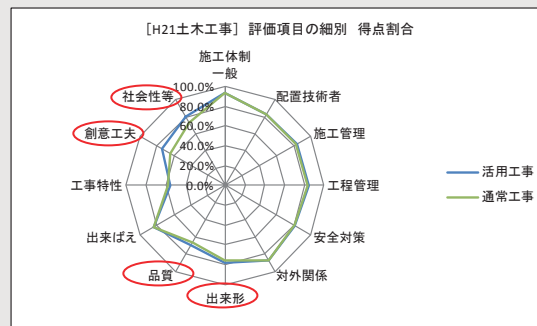


図-2 工事成績評定の評価項目毎の得点割合